

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議『エコ』21
 編集責任者：奥野 享
 事務局：豊中市環境情報サロン内
 〒561-0804 豊中市曾根南町1-4-3
 Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P.1 環境展/P.2とよっぴー祭り/P.3太陽光発電設置/P.4
 自然部会/P.5生活部会/P.6
 企画屋ウォーク、環境と私/P.
 7環境政策室/P.8今後のスケ
 ジュール

2007年(平成19年)冬号 NO.21 (通巻第39号)

来て・見て・遊んで 考えよう! 地球環境のことを

とよなか市民環境展2007

12月7日(金)・8日(土) 両日とも10:00~16:00
8日の観覧上校金は20:00まで
 豊中市立市民会館 豊中市曾根南町3-7-1
高層ビル建設(仮称)「豊中駅前ビル」(仮称)の建設工事(仮称)の現場見学(仮称)の会場

入場無料

企画展「子ども・未来」
 子どもの未来を考える。子どもと一緒に楽しむ企画

展示・体験コーナー
 環境と、企業、日常による環境に関する展示や、
 体験型展示コーナー

エコカー・自転車大集合
 エコカーや自転車、自転車検定などの展示・体験

飲食・販売コーナー
 エコニックカフェ、子ども食堂(100円のみ)
 エコカー・自転車・環境に関する展示(仮称)の会場
 リニューアル(仮称)の会場(仮称)の会場

大ホールでの鑑賞
 ●7日(金) 19:30~16:00
 鑑賞券なし! 豊中市子どもエコフェスティバル2007
 (豊中BESTモ子丸劇場)
 ●8日(土) 14:00~17:00
 市民会館

映写上映会(大ホール)
 12月8日(土) 11:00~13:00 18:00~20:00
不都合な真実 入場無料
ノーベル平和賞受賞! アル・ゴアさん(前米国副大統領)出演

主催 NPO法人とよなか市民環境会議『エコ』21
 共催 とよなか市民環境会議、豊中市、豊中市教育委員会
 後援 豊中市環境情報サロン(予定)

お問い合わせ先：NPO法人とよなか市民環境会議『エコ』21 ☎06-6863-8722
ホームページ: http://www23.ocn.ne.jp/~eco21/

「とよなか市民環境展2007」を応援します

100 品物配合率100%の地元産品を使用しています

来て・見て・遊んで 考えよう! 地球環境のことを

12月7日(金)、8日(土)開催の環境展は「来て・見て・遊んで 考えよう! 地球環境のことを」がキャッチフレーズ。企画展も「子どもの未来を考えよう。子どもといっしょに楽しもう」を基本の考えとして計画しました。

〈エコカー・自転車大集合〉ではエコカーはもちろん、おもしろい自転車の展示と試乗が呼び物です。

〈飲食・販売コーナー〉では、昨年人気だった有機栽培のコーヒーなど自然系の食品をリユースの食器で飲食していただきます。もちろんとよっぴーで育てた野菜や竹炭プロジェクト特製の竹炭と竹酢液などの頒布もあります。

映画「不都合な真実」を無料上映

ノーベル平和賞受賞のアル・ゴアさん(前米国副大統領)出演の映画ですが特別企画として、8日(土)11時からと18時からの2回上映。いずれも入場無料になっています。

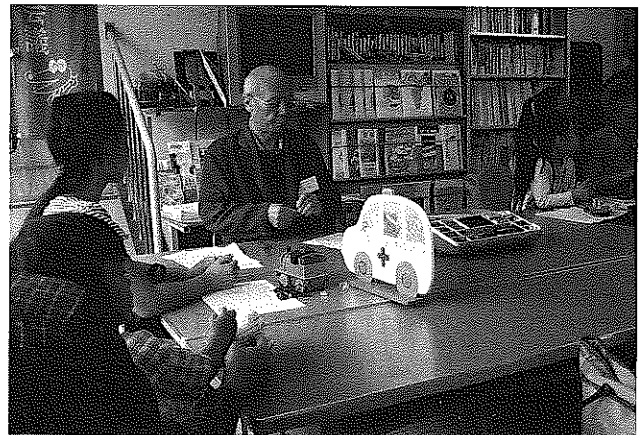
おもちゃ病院 隔月に1回開く

環境情報サロンを広く市民の方に利用していただける『環境の館』にしていくための取組みの一つとして、定期的にボランティアのおもちゃ病院を開院することになりました。

これは「とよなかおもちゃ病院」に依頼して行うもので、第1回は10月13日(土)に開催、10組22人の方たちが環境情報サロンを訪れました。

おもちゃ病院のスタッフがその場ですぐに修理をさせていただきますが、預かってゆっくりと修理をされるものもあります。大事なおもちゃを手放すのが寂しくて不安そうな表情の子どもに、「ちょっと重症だから入院しないとイケないからね」と言うと納得して帰ります。子どもにとって、おもちゃは大切な宝物だということは今も昔も変わらないようです。

物があふれている現在でも、壊れたらすぐに捨て



るのではなく、修理して大切に使うことを教えることは大事だとつくづく感じました。

開催は偶数月の第2土曜日10時から12時です。

とよっぴー祭り 3時間に1200人来場

豊中市堆肥化施設『緑と食品のリサイクルプラザ』開設5周年を記念して、10月20日(土)「第2回とよっぴー祭り」を開催したところ、予想をはるかに超える1200人の市民が原田中に集まり、文字通り『うれしい悲鳴』の1日となった。

資源循環の和・輪・環のテーマで、ごみを出さない祭り、市民主導の手作り祭りをめざして、とよっぴーを通じた関係者と実行委員会をつくり、6月から準備をすすめた。1回目は雨の中での開催だったので、今回は気候のよい、借用農園を活用できる収穫の秋を選んだ。当日は、開園1時間前くらいから、どんどん人が集まり、あっという間に500人くらいの長蛇の列となった。開始早々に花の苗など人気のプレゼントがなくなり、野菜販売



車場誘導や会場設営・撤去など、地味で重労働ながら祭りの土台を支えていただいた。

模擬店も愛情溢れるカレーや焼きそば、たこ焼きなど、すべてリユース食器を利用してデポジットをかけた結果、お箸・スプーンを含め食器返却率100%であった。

祭りの終わった直後から、疲れも見せず、それぞれの担当メンバーから、「次回は、こうしよう。もっとうまくやれる」と言う声がきかれ、課題や反省を次に繋げるスタッフのエネルギーに圧倒されている。次の開催に際しては、「どんだけ〜」来てくれても、スタッフにとっても、満足度の高い祭り、発信する祭りをめざして取り組みたい。

豊中の端に位置する場所へ、大勢の方が来てくれたことは、地元のお祭りから、市民権を持ちつつあるのだと確信している。同時に、とよっぴー祭りを支えてくださった実行委員会の力によるところが大きい。この場をお借りしてお礼申し上げたい。(高島邦子)



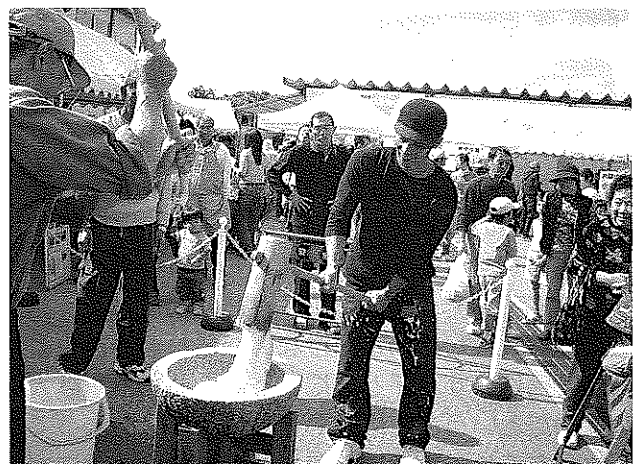
や芋ほり体験受付も終了、来場者に引いてもらう抽選券も700人分しか用意していなかったため、あちこちで失望の声を耳にすることとなった。

花と緑のネットワークとよなかは、リサイクルプラザ横の植木の仮植え場所500㎡を「とよっぴー環境教育農園」として5月から借用し、さつまいも畑に変身させ、その一部を祭りの企画のひとつ「芋ほり体験」にした。

花いっぱい運動グループの有志は、種からプレゼント用の苗600株や鶯笛やトトロの工作ブースを、また竹炭プロジェクトは竹馬や竹こっぽりなどを、子どもたちのためこれも手作りで準備した。

豊中市農業経営者協議会研究部会長・橋本さんから提供の豊中産新米110kgは、餅つき大会や景品用新米になり、祭りの目玉のひとつになった。

水道局からは災害備蓄水、公園みどり推進課からはバラの苗木などの提供があり、市労連には、当日の駐



全国的に広がりつつある市民共同発電の輪 豊中でも太陽光パネル設置でカンパを呼びかけ中

環境問題に心を痛める多くの市民がお金を出し合い、公共施設やあるいは私立幼稚園や保育園などに太陽光パネルを設置する運動が全国的に広がっています。

全国の市民共同発電に呼応して

このような共同発電の取り組みは太陽光発電だけでなく小水力、風力発電なども含め全国で170カ所にのぼり、活動する市民団体も70団体を超えています。(市民共同発電全国フォーラム)

豊中でも、市民共同発電の実行委員会を立ち上げ、市民・事業者・行政とともに協働して推進する、地球環境を守る活動のひとつとして、このたび大阪府からの設置助成の採択をうけることができ、第1号機を豊中市環境情報サロンに設置することにしました。

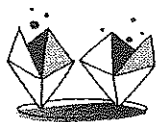
「エコSUN市民発電」の愛称で

実行委員会ではこの市民共同発電に「エコSUN市民発電」の愛称をつけ、広く市民に寄付を求めることにしました。第1号機の予算は250万円、来年度3月に発電開始をめざし、1口3000



円を単位とした寄付を募り、市民の力による協働事業として成功させたいと考えています。また、ご寄付をいただいた個人、団体の皆さんの厚志を大切にするためには、銘板に記名を残すことにしています。

今年になり地球温暖化防止の課題がいよいよ深刻さを増している状況のもとで、このような市民による共同発電、「エコSUN市民発電」の事業を成功させるために、よろしく協力くださるようお願いいたします。



花と緑のネットワークとよなか

秋とはいえ暑さの残る9月28日(金) 共同利用施設庄内幸センターへ、地球温暖化と段ボール堆肥の助成のお話に行ってきました。参加者は39名、こちらからは5名。

9月の講習を受けて、ダンボール堆肥に感激、地域に広げたいとアジェンダの新会員さんからの依頼で実現。まずスクリーンを使って地球温暖化のしくみと現状について説明。続いて手持ちの材料でできる段ボール堆肥の作り方の実演です。参加者は男性ばかりでしたが、皆さん熱心に覗き込んでおられました。

最後に生ごみ堆肥化助成事業の案内です。コンポストの場合は3000円、ぼかしバケツの場合は1500円の助成、段ボール堆肥の場合は現物で助成します。ぜひあなたも家庭の生ごみを堆肥にすることから始め

ダンボール堆肥の講習会



ませんか? 人類約60億人、一人ひとりがごみを減らす努力をすれば、今以上の地球温暖化は防げるのではないのでしょうか!
(猪尾英雄・小村幸子)



自然ふしぎ発見クラブ 秋は団栗、ドングリ！

自然部会

10月20日（土）、前日の天気は雨模様だったので心配でしたが、秋晴れのもと予定したプログラムを無事終えることが出来ました。

開催場所の千里中央公園には、かつて豊中市の池の



中で水の透明度が一番といわれた「安場池」があります。流入する川も無いのに、いつも美しい水面をみせています。もともとこの地にあった雑木林が僅かに残されていて、そのおかげで保水がいいのでは、と考えています。

「この実を食べてごらん」自然部会の山口壽さんが、小さなグミの実を皆に教えてくれます。「しぶいよ」「おいしくない」と子どもたちの反応に「昔の子どもはおやつ代わりに食べたもんだヨ」とわいわいガヤガヤ、一挙に全員打ち解けた雰囲気になりました。

目的の雑木林に入るとコナラ、クヌギ、アベマキのドングリがいっぱい落ちています。子どもたちはもう夢中です。ドングリの種類も理解出来たようで、“殻と”の違いにも、興味深々の様子でした。

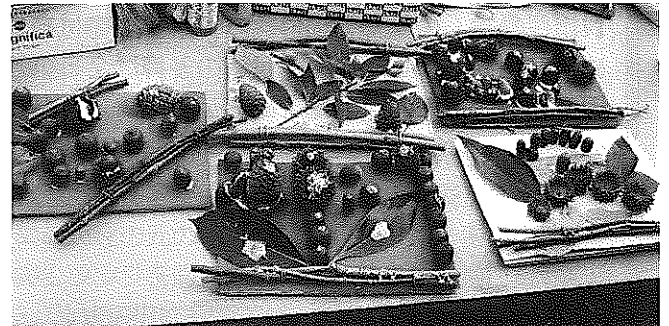
その後、竹炭プロジェクトが間伐した場所、竹のお話も聞きました。

さあ、後は作品作りです。ダンボールに布を張り付けたものを額にみだてて、拾ったドングリ、落ち葉、木切れて自分の宝物をつくります。あっという間にかっこいいアートを完成させた小さな子。じっくり、じっくりしっかりボンド付けするお兄さん。保護者もわが子の特性に気がつき驚いたり、喜ばれたり。

炒ったマテバシイの試食も大好評でしたし、竹の植木鉢にドングリを埋めてご自宅へ持ち帰っていただきました。

スタッフも、とても楽しい2時間でした。

（上田峯子）



天竺川の清掃に参加する

「豊中市まちを美しくする運動」の行事として、市環境部、府池田土木事務所が中心になって、毎年6月と9月の2回、天竺川の清掃を行なっている。私たち自然部会も豊中の自然を守る活動の一環としてこの行事に参加している。

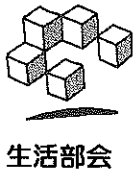
例年私たちは八坂橋の下付近を行なっているのですが、今回もそのように計画して、環境部へ用具や後始末のことを依頼したところ、八坂橋の下は工事をして、ごみが溜まりにくくなっていることもあってか、今回は西願



寺橋の方に集中して欲しいということだった。しかし、すでに広報誌にも記載されている旨伝え、八坂橋下に決めて貰った。

当日は、天候にも恵まれ、部会員の他、市、府の関係部局の方々が多数参加して清掃が行なわれた。ゴミは上から見た以上に多く、飲み物の空き缶や、土木工事で捨てられた物など、予想を上回る量が引き上げられた。

来年度もまた、この清掃を行なおうと思っているが、旭丘地区の人たちの参加を是非期待したいと思っている。（山口壽）



2008年のエコライフカレンダー配布中

2007年は、なんとと言ってもIPCCの第4次報告書により地球温暖化の原因が人為的なものであることの確信が強まり、またアル・ゴアさん出演の「不都合な真実」の映画が大ヒットし、IPCCといっしょにノーベル平和賞が贈られました。

そのような状況を反映して、新しい年は脱温暖化に向けて、家庭でできることは何かの問題意識が強まり、市民生活の中に地球温暖化防止に取り組む運動が再び大きく広がるのではないかと予感しています。

「不都合な真実」にも見られるように、ものすごい変化の始まりと、せっぱ詰まった環境の変化を身にしみて感じながら、今年のエコライフカレンダーはそんな時代を反映したものにしようと考えました。

家庭でできるエコな暮らしのミニヒントや、アジェンダで取り組んでいるいろいろな活動の紹介、88項目の行動提案の中から関連する項目を紹介したり、生活の中で取り組むことができる話題を今まで以上に心がけて取り入れました。

未来を担う子どもの情景をいつも載せていますが、今年も撮影者宮田健さんの力作が揃っています。「大樹のいのちをもらって」「ただ走ることが楽しい」「夏の川は気持ちいい」「たくさん落ち葉を集め焼き芋をする」などの写真も十分に楽しめます。



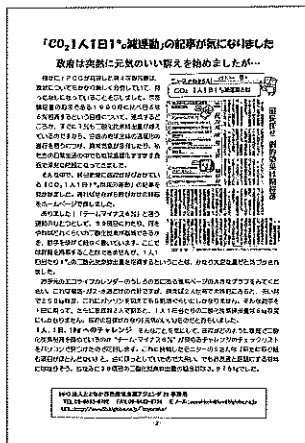
そして、毎月のエネルギー消費にも少しだけ気を配り、データを書き込んで生活部会宛にお送りください。集計した結果を整理して皆さんにお返しします。よろしくお願いします。(奥野)

「モニター倶楽部」10号 CO₂ 1人1日1kg削減運動が話題に

これは安倍政権のときに呼びかけられた話ですが、環境省が推進する「チームマイナス6%」運動のひとつとして、39項目にわたり、何をやればどれ位の二酸化炭素が削減できるかが、数字を挙げて細かく書かれていました。

さっそくモニター倶楽部では詳細にわたって削減項目の一つひとつを当たってみました。そして、1人1日あたり1kg二酸化炭素を削減するということはかなり大変なことだと気づかされました。

まず、私たちのモニターの場合、一般にどれくらい二酸化炭素の排出量が報告されているかを見ました。2人世帯の平均は1カ月250kg程度で、これを1日の数字に換算し、さらに人数で割ると、1人1日当た



りの二酸化炭素排出量は6kg程度なのです。政府の目標はかなり「元気のいい」呼びかけか、あるいは政府が基準にしている家族はかなり大量にエネルギーを消費しているに違いないとわかりました。

もう一つ、政府が推奨する39項目の削減例を、一つひとつ吟味してみました。これに挑戦したモニターのSさんは「新たにに取り組む項目がほとんどないと、変にほっとしていました。

ちなみに39項目を全部やりとげるなら、1日のCO₂削減量は3.975kgなっていました。(奥野)

環境クイズ

IPCC (気候変動に関する政府間パネル)の第4

次報告書が話題になりましたが、この国連機関の作業部会には約何人ぐらいの科学者が参加しているでしょう。①50人、②700人、③4000人。



企画屋本舗

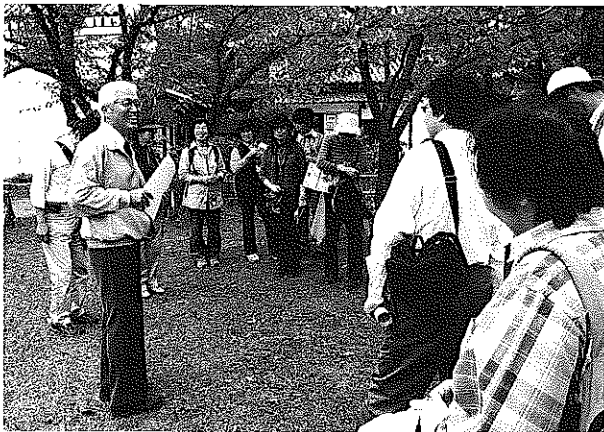
豊中に谷が？！

～泉丘・五郎谷から民家集落へ

10月14日朝、市役所前を出発、旭丘の豊中央防災倉庫へ。市の危機管理室の方に、特別に中を見せてもらう。災害時用の毛布、アルファ米5万5千食、地下には飲料水百トン、雑用水百トン（小学校プール約半分）を備蓄。外には非常用トイレが10基設置できる。

他の地区では学校のプールが消火やトイレの水に。また、校区ごとの自主防災組織づくりに出前講座や、

日本民家集落博物館で説明を聞く



実地訓練も。非常時は、やっぱり「ご近所の底力」！？

次は、熊野町の八坂神社をめざす。キンモクセイの香。市民農園では、薄紫のナスの花が美しい。八坂神社の歴史は一千年を超える。阪神・淡路大震災で倒壊した鳥居も再建され、巨樹の茂る境内は静かだ。時お

りヒヨドリが静けさを破る。特別に台額収納庫に入れていただき、祭りで担ぐ台額を見学。裏側まで色々細かい細工があり、見飽きない。鳳凰、龍、天狗、麒麟、亀、虎、兎、鶴に瑞雲、松、梅などが、黒地に金で飾られている。子ども用の台額もある。宮司さんに説明していただく。祭では太いろうそくを中に灯し、30人がかりで担ぐ（昔は8人とか）。

五郎谷にいたる田園風景を楽しむ

所有者のご好意で、私有地の畑の道を歩かせてもらう。土の香り。「ここが豊中？」と思うような田園風景。「キチキチ」とモズが鳴く。みごとな柿とミカンの木が並ぶ。残念ながら、柿が熟するのは、11月末とのこと。近くの無人野菜販売スタンドで、女性陣はお買い物。葛の花のような赤紫のタンキリマメが咲いていた。

日本民家集落博物館（服部緑地）

日本初の野外博物館。ダムに沈む民家などを、豊中市が移築。関西財界が協力した事などを副館長から説明を受け、続いて自然部会の三宅さんからどんぐりの種類や見分け方の解説を聞き、自由見学に。

北は南部の曲家から、南は奄美の高倉まで、風土に合った民家が木々の間に点在する。重要文化財も多い。ボランティアが囲炉裏に火をたき解説してくれる。能勢の民家の元の住人は、正月飾りや、田植え開始の合図にツツジを飾りに来られるそう。夏、蚕が桑を食べていた白川の民家では、絹糸がひっそり光っていた。

（井下祥子）

環境とわたし

自然部会に入会してからは、身の周りの動物や、植物に対する観察が、変わったように思います。

公園を散歩しながら、池で水鳥を数え、草地では小さな虫や花を、熱心に見つめる。ネジバナを見つけたときは、しゃがんでいろいろな方角から眺めながら、振れた花の可愛らしさに、飽きることなく見惚れる。本当に嬉しそうに、楽しく踊っているように咲き誇っている。

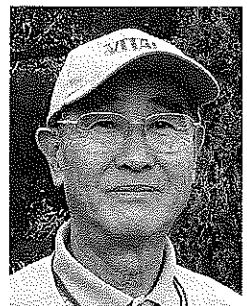
また、双眼鏡で少し離れてアップで見ると、より一層濃いピンク色がどんなに美しいことか。ますます好きになる。このネジバナはラン科で、もっとも身近な野生ランであることを会員の皆さんに教えてもらい知

⑮ 川並 清忠さん

自然部会・竹炭プロジェクト

りました。

これからも魚類調査、野鳥観察など、いろいろな行事に参加しながら楽しく活動して行きたいと思います。



最近の新聞紙上で世界的に自然破壊が進み、緑が失われている記事を目にします。豊中市もこれ以上緑を失わないよう、自然部会のTシャツのタイトルのごとく「豊中の自然がなくなってしまう……ことのないように」これからも自然保全活動に精を出して行きたいと思います。

地球温暖化防止地域計画

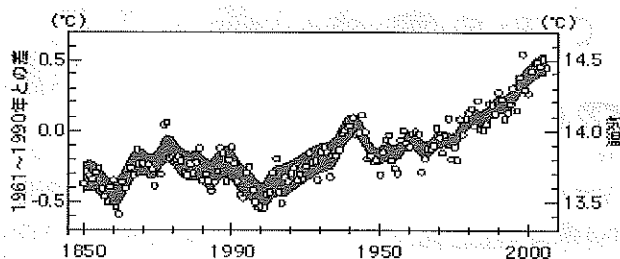
チャレンジ・**マガス** 70プランを策定しました!

市では、今年11月「地球温暖化防止地域計画～チャレンジ・70プラン」を策定しました。市民、事業者、学識経験者など20名の委員で構成される策定委員会を設置し、昨年10月から計6回の委員会で本計画について検討を重ねていただきました。主な内容について、ご紹介します。

地球温暖化の現状は?

地球上では、すでに平均気温の上昇、異常気象などの現象が表れ、海面上昇により南太平洋の島国では、国の存在そのものが脅かされる事態となっています。その原因は二酸化炭素など温室効果ガスの増加で、それは人間の生活や経済活動から由来するものとIPCC（気候変動に関する政府間パネル）は断定しています。

図 世界の平均気温の変化



出典: IPCC 第4次評価報告書第1作業部会報告書

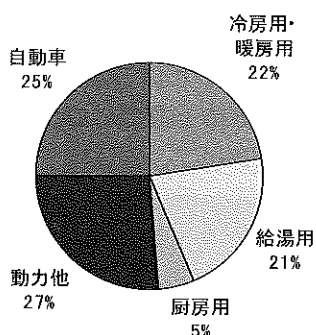
危機的な状況を回避するためには?

気温上昇を産業革命(19世紀前半)前の水準から+2°C以内に押さえること、大気中の二酸化炭素濃度は550ppmを大きく下回るレベルで安定化させることが必要とIPCCで予測されています。そのためには、世界の温室効果ガス排出量を2050年までに1990年比で半減、先進国は60~80%削減させる必要があります。

そこで、豊中市では市民一人あたり排出量を1990年比 **2050年までに70%削減**するという超長期の目標を設定しました。その目標の実現のため、2020年に20%削減、2030年に40%削減と設定し、2050年までの需要量の推移、対策ごとの削減量を試算し対策を検討しました。

みんなで取り組む地球温暖化対策

市民生活の中での排出量割合



出所: エネルギー・経済統計要覧'06と豊中市2005年度排出量調査から推計

本計画では、特に削減効果の大きい「暖房・冷房対策」「給湯対策」「自動車抑制対策」と太陽光発電などの「再生可能エネルギーの導入」の4つの取り組みを主に進めます。

さらにその取り組みを推進する仕組みづくりを協働で行います。

地球温暖化対策を推進する仕組み

- ①省エネ機器、省エネ住宅への取り組み等に対する支援システムの構築
- ②自動車の利用抑制と公共交通機関利用への転換促進
- ③学校等における光熱水費削減分還元制度の仕組みづくり
- ④地球温暖化防止エコポイント制度の仕組みづくり

市では、この地球温暖化防止地域計画を、環境基本計画、市民行動計画である豊中アジェンダ21と同じく、市民・事業者・NPO・行政で協働・連携しながら推進します。目標達成のための道のりは険しく、豊中の挑戦が地球全体でどれだけ貢献できるかは未知数です。けれど、この地球のこの豊中の環境を、次世代へ豊かな形で引き継ぐため、市民のみなさんとともに挑戦していきます。

問合わせ先 環境部環境政策室地球温暖化対策チーム TEL06-6858-2127,FAX06-6842-2802

スケジュールのお知らせ

自然学習講座

「北風の動物の現状と共生の可能性」

12月14日(金) 18時30分～20時30分
中央公民館

竹炭焼きと窯だし

火入れ 12月19日(水) 9時～12時
窯出し 12月20日(木) 9時30分～12時
千里中央公園野外炊さん場

環境学習会

「かしこい暮らしの省エネ」(仮)

1月21日(月) 13時30分～15時30分
くらしかん

廃棄物処理法・条例等の勉強会

1月23日(水) 13時30分～16時30分
リサイクル交流センター

おもちゃ病院

2月9日(土) 10時～12時
環境情報サロン

とよっぴーの有料頒布(2月～3月)

第2土曜日&第4水曜日 10時～11時
緑と食品のリサイクルプラザ

編集室から

▼生活展のクイズラリーに「家庭で出すCO₂を燃料別で見ると何がいちばん多いか」三択の出題をした。正解は電気だが「ガスの方が多い気がする」と言う人がいた。発電所で出す大量のCO₂がぴんと来ないのだろう。平易な宣伝ができていないのを痛感。(Z)

▼友人の娘さんが、2階のベランダにゴーヤを15本も植えました。水やりが大変なので、彼女は量販店で材料を購入して2階に雨水を貯めるようにしました。ゴーヤはよく成長。その後、市の「雨水貯留タンク」の助成で大きなタンクを設置しました。友人はよく水が貯まるので助かっていると喜んでいます。(H)

▼食料の多くを輸入に頼っている日本はフード・マイレージ(食料の輸送量×距離)がダントツの世界一だと聞く。遠くから食料を手に入れるために石油をたくさん消費し、CO₂をいっぱいばら撒いている。せめて主食は国内産(できれば地場産)を食べ続けたい。(Y)

▼とよっぴー祭りは1200人の来場者を記録する大盛況でした。これはNPOとよなか市民環境会議アジェンダ21の一員であるNPO花と緑のネットワークとよなかの活動が多くの市民に受け入れられた結果の証

と思います。その快挙に敬意を表し、拍手!(S)

▼私が幼い頃、父がよく「暑さ寒さも彼岸までや」と言っていました。今年の猛烈な残暑はこのことわざを覆してしまいました。日本の美しい四季を保つためにも、今を生きる私たちが地球温暖化を防ぐ砦になれば…。(W)

▼12月は地球温暖化防止月間ということで、各地でシンポジウム等様々な催しが行われます。「とよなか市民環境展2007」は、その中でも身近に感じることのできる、子どもも楽しめるイベントですので、是非ご来場くださいますようお願いいたします。(J)

▼先日、ワインの栓にビックリ! コルクじゃない。コルクそっくりなプラスチックみたいなものでできている。何で? うーん…。ゴミに出すとき、不燃ごみ? 再生プラ? ちなみにコルク栓はコルクガシという地中海原産の常緑高木の樹皮から作るとか。(P)

環境クイズの答 ③の4000人です。3つの作業部会が、自然科学的根拠・影響・緩和策をテーマに研究。130カ国と地域を超えた科学者が報告書を作成。(朝日新聞から)

ご寄付のお礼

アジェンダ21の活動に対して温かいご寄付が寄せられました。

今井久清さま 5000円
ありがとうございました。

《広報チーム》

Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、W別所、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp